

こたまコラム (矢作新報社への寄稿内容)

本県は製造品出荷額等が40年連続で日本一という圧倒的な産業集積を誇り、更には先般公表された平成27年度の都道府県別GDPでも、初めて大阪府を抜いて全国2位となるなど、日本の成長エンジンとしての役割を担ってきました。

しかし、本県の先進的な政策の裏付けとなっていた自主財源に関しては、外形標準課税の拡大などにより、今後は県内企業の収益が税収増に繋がりにくくなる一方で、歳出面においては高齢化により社会保障費の更なる増加は避けられず、これまで以上に厳しい行財政運営を強いられることとなります。

こうしたことから、いま本県では将来の経済基盤を支える新たな事業として、2027年度のリニア中央新幹線開業を視野に入れた新たな魅力づくりや次世代産業の育成などが展開され、更には子育て・介護・医療福祉に及ぶ社会保障需要の高まりに対応した事業も進められているところでありますが、加えて本県特有の交通安全対策や防災対策など、愛知らしい経済活動と生活とのバランスが取れた社会スタイルの実現に向けた県独自の取り組みを加速することが求められています。

従って、私が所属しております「新政あいち県議団」では、前身となる民進党愛知県議員団時代から、県民目線・生活者目線・勤労者目線・現場目線の4つの視点をもって政策提言等に積極的に取り組んできたところでありますが、今年度は新たに女性目線の視点も加え、現在は来年度以降に向けた提言書案の作成に団を挙げて取り組んでおります。

そして、私はその取りまとめの責任者たる県議団の政策調査会長を今年度拝命しておりますので、この政策提言を通じて、誰もが魅力を実感できる愛知の実現に向けて引き続き頑張ってまいります。



愛知県議会議員

こたま よしかず

樹神 義和 